

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	850 公民館管理経費	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
		目	05	公民館管理経費
基本 施策	33 だれもが生きがいを持てる機会をつくる	細目	443	公民館管理経費
		細々目	01	公民館管理経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード	451700		担当者 氏名
	名称	大山田公民館		
			氏名	児玉 泰清
			連絡先	46 - 130 (内線)

### 事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	図書室利用者	※対象件数
成果(どうする)	市民に対応した図書サービス及び読書に親しめる環境ができる。	
根拠法令・要綱等	子どもの読書活動の推進に関する法律、伊賀市子ども読書活動推進計画	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	図書館情報システムサポート・機器等賃借、図書購入 読み聞かせ会を開催 地域ボランティアの育成	
社会情勢 の変化等	地域外からの利用者を含め、利用者が増加している。	

#### 整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

#### 運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

### 事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			公民館利用者数	人	目標 1,250 実績 1,440	目標 1,250 実績 4,211
図書購入冊数	冊	目標 350 実績 333	目標 350 実績 473	350	350	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				図書室利用者数	人	目標 1,850 実績	目標 1,850 実績
図書貸出冊数	冊	目標 6,100 実績 6,694	目標 6,100 実績 10,179	10,000	12,000		

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)	1,522	2,359	2,396	2,446				
A の 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	0	0						
一般財源	1,522	2,359	2,396	2,446				
事業投入人件費 (B)	1.0 人	7,200	1.0 人	7,200	1.0 人	7,200	1.0 人	
フルコスト(A)+(B)	8,722	9,559	9,596	9,846				

### 事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	○
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	○
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○	
サービス水準や対象を見直す余地がある。		
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
予算の繰越の有無	無	
【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
【事業名】		
受益者負担を求めることができる事業である。	○	
全体コストにおける負担構成は適正である。		
コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

#### 昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	伊賀市全域での図書システムを利用することにより、図書サービスを行なっていく。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	図書室の環境づくりや公民館講座等事業との連携に努めた。 読み聞かせ会の開催や地域ボランティアの育成を行なった。

### 今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	重本 敏昭
【方向性】	他事業と統合
【理由】	
事業の方向性	施設の情報機械を管理する事業である情報化学習事業を公民館管理経費とするため。
現時点における課題、その他	図書室の利用者から土曜の午後及び日曜の開館の要望を受けている。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	23年度から図書室の土日開館を実施したい。